

コープやまぐち奨励賞

福島の子どもたちとつながる宇部の会（宇部市） 子育て分野



活動の動機・目的

2011年3月に発生した東日本大震災において、発達障がい児・者を持つ家族は集団行動を強いられる避難が困難であったことから、長年、発達障がい児・者を支援してきた前代表の呼び掛けにより会が発足した。準備会に集まったメンバーの多くが、チェルノブイリで被爆した子どもたちの保養支援の経験を持っていたことから、特に原発事故によって健康被害が懸念される福島の発達障がい児・者を持つ家族の避難・保養・移住支援をすることを決めた。活動を通して、福島・山口（宇部）相互の交流と理解を深めることを目指している。

活動の内容

①保養実施。これまで5回（春1回、夏4回）、1週間程度の保養を実施。

【募集】

福島自閉症協会に依頼し、空きがある場合にウェブ募集へ切り替える。発達障がい児の保養は全国的に皆無の状況。今年は無理のない範囲で、3家族8人を受け入れた。

【実施内容】

中学生から高齢者まで幅広い年齢層の会員・ボランティアを統括・食事班・付添班の3つに分け、参加家族の世話をしている。子どもたちには、各々1人以上の付き添いボランティアをつけ、それぞれ特徴・個性を持つ発達障がい児に対応している。実施前には、研修を2回実施し、知識・理解を深めることとしている。今年には海水浴の現地視察も実施。期間中は朝と夜に保護者も参加してのミーティングを行い、連絡を密にとり、安心・安全を確保。

今年度は、きわらビーチ海岸（宇部市）での砂遊び、海水浴。障がい者の就労施設「NPO法人 ぐうですぐう」の見学。甲状腺検査を実施（参加家族全員の健康診査）、専門家・経験者によるカウンセリングを実施。

②移住家族（母子避難）への支援

第1回目の保養をきっかけに3家族が宇部市への移住を希望。教育委員会への付き添い、家探し、経済的支援など実施。他にクリスマス会、新年会、懇親旅行の企画と子ども達の運動会への参加等。

③「3・11被災者に思いを寄せる宇部市民の集い」を「復興支援うべ」との共催で実施。

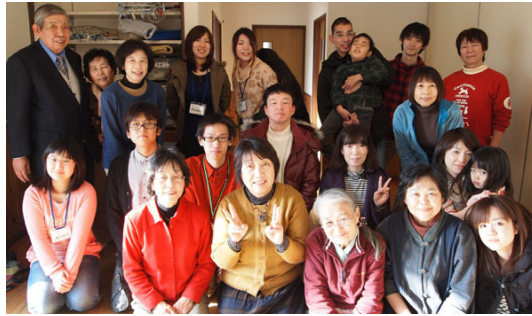
被災地の早期復興を願って企画。東北の物産販売などのバザーや紙芝居、朗読劇などさまざまなイベントを展開。

これからめざしたいこと

保養実施後、子どもたちに大きく成長した様子が見られた。言葉を発しなかった子どもが単語を言ったり、小さい子どものお世話や人の話をじっくり聞けるようになった子どももいた。子どもたちの成長は会員の喜びでもあり、活動できるメンバー・ボランティアが減り、資金面も苦しくなってくるが、引き続き、交流・理解を深めていきたい。



宇部空港で名残り惜しく…



楽しい新年会（平成26年）